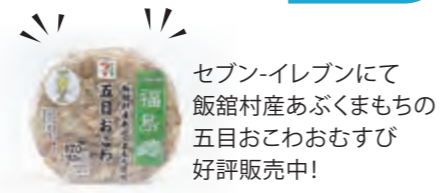


水稻の作付け進む あぶくまもちも生産拡大へ

営農を再開する水田は年々拡大していて、飯館村振興公社、13区営農組合をはじめ、さまざまな営農団体や農業法人、あるいは個人が担い手となり、食用米(うるち米・もち米・酒米など)、飼料用米の栽培に取り組んでいます。小さな苗がやさしく揺れる水田の広がり、担い手の皆さんの挑戦の軌跡そのものです。

01 水稻



献穀米
全国から選ばれた生産者が、厳格な管理の元で生産し、皇室に献上する特別な米です。



飯館村あぶくまもち生産組合の組合長として、発足以来、生産拡大に力を尽くしている青田さん。
「里山のつぶ」も栽培しており、今年は献穀米の生産者としても栽培に取り組みます。

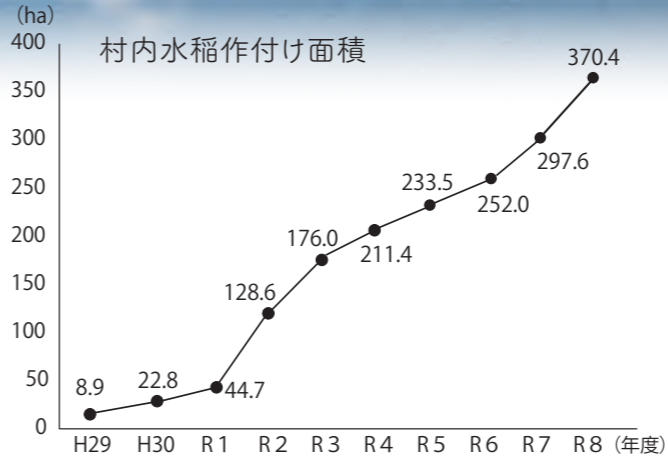


5月14日、あぶくまもち種子圃場の田植え。

児童と園児の田植え体験



いいたて希望の里学園の前期課程の児童と、まていの里のこども園の年長児が、前田・八和木地区の水田で、あぶくまもちの田植えを体験しました。
子ども達が作業をしやすいよう、この水田の持ち主で管理に協力する森永正男さん(前田・八和木)が、圃場を整え迎えてくれました。子ども達は、青々とした苗を手に取り、すじ引きされた田に丁寧に植えていきました。上級生は、毎年の経験を生かして、スムーズに作業。下級生を助けたり、コツを教えたりしていました。
活動の最後に、代表児童が「農業の大変さがわかりました。大変だけど、とても楽しい」と感想を発表。多くの人の協力に感謝を伝えました。森永さん、村民ボランティアの皆さん、温かなご協力をありがとうございました。



令和8年水稻作付け
 主食用米 202.83ha(加工用、輸出米等を含む)
 WCS用米 51.49ha(WCS=稲発酵粗飼料)
 飼料用米 115.86ha
 酒米 0.22ha
 合計 370.39ha
 令和8年5月26日現在

この春の農のトピックを皆さんにお知らせします

5月、村内各地で田植えが進みました。今年の水稲の作付け面積は、5月28日時点のとりまとめで約370ヘクタールとなっています。

作付けされた水稻の品種は、「里山のつぶ」「天のつぶ」の他、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」「ヒメノモチ」「こがねもち」「あぶくまもち」、飼料用米の「ふくひびき」と多品種にわたっています。

震災による農業の中断、さらには除染により、手をかけてきた肥沃な土壌を失い、農業は大きく後退しました。マイナスからのスタートを余儀なくされたあの時、現在のような状況を、誰が想像できたでしょう。多くの人のたゆまぬ努力の証が、この田園風景です。農地は一步一步、着実に広がっています。

このページでは、この春の農のトピックを、いくつかまとめて紹介します。